

**[成果情報名]中晩生カンキツ「津之望」の高糖度果実生産のための着果量**

[要約]中晩生カンキツ「津之望」は 20 果/m<sup>3</sup>程度の着果量で L～2L 階級中心となり、高糖度な果実を生産できる。

[キーワード]カンキツ、津之望、着果、階級

[担当]長崎県農林技術開発センター・果樹・茶研究部門・カンキツ研究室

[連絡先](代表) 0957-55-8740

[区分]果樹

[分類]指導

[作成年度]2018 年度

---

**[背景・ねらい]**

「津之望」は着花性が良いため、着果過多になりやすい。小玉果が多くなり、糖度は向上するが隔年結果を招きやすいため、2L 程度の果実生産を目標とした摘果指標を公表している（ながさき普及技術情報第 36 号）。そこで、連年生産するための着果量の違いによる階級比率を明らかにする。

**[成果の内容・特徴]**

1. L～2L階級果実はMおよび3L階級と比べ、果実重、糖度および酸含量が中庸である（表 1）。
2. L～2L階級比率は着果数40果/m<sup>3</sup>で32%、20果/m<sup>3</sup>で75%、10果/m<sup>3</sup>で47%程度となる（図 1、写真 1）。
3. 着果数20果/m<sup>3</sup>で収量は40果/m<sup>3</sup>よりやや少ないが、糖度は13程度となり40果/m<sup>3</sup>との有意差はない（表 2）。

**[成果の活用面・留意点]**

1. 西海市の露地栽培で、樹齢 6 年生を供試した結果である。
2. 果実階級は温州みかん規格で区別している。
3. 摘果は 6 月下旬、7 月中旬、8 月上旬の 3 回に分けて行い、それぞれ時期別摘果割合を約 30%とした。
4. 着果数は 40 果/m<sup>3</sup>区で 31～50 果/m<sup>3</sup>、20 果/m<sup>3</sup>区で 17～25 果/m<sup>3</sup>、10 果/m<sup>3</sup>区で 11～14 果/m<sup>3</sup>である。

[具体的データ]

表 1. 「津之望」の階級別果実品質<sup>z</sup>

階級	果実重 (g)	糖度 (Brix)	酸含量 (g/100ml)
M	112.8 d <sup>y</sup>	12.8 a	0.86 a
L	142.3 c	12.1 a	0.78 b
2L	182.9 b	12.1 a	0.63 c
3L	233.0 a	11.7 a	0.59 c

<sup>z</sup> 2016年12月28日、2017年12月25日、2018年12月27日に調査した3ヵ年平均 (n=6~30)

<sup>y</sup> 異なる文字間は Tukey-Kramer 法による多重比較により 5%有意水準で有意差あり

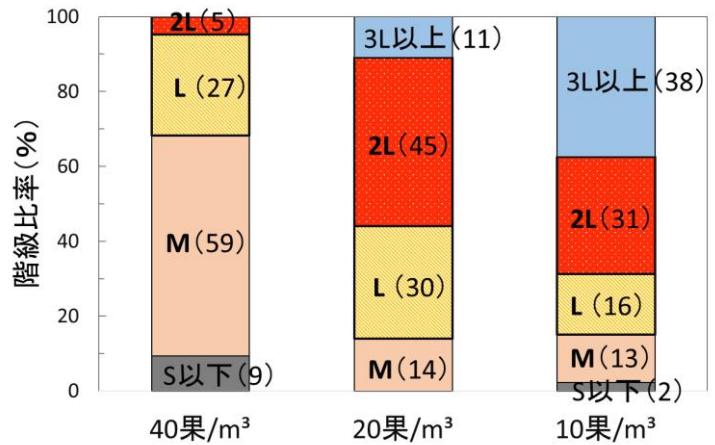


図 1. 「津之望」の樹容積当たり着果量別の階級比率<sup>z</sup>

<sup>z</sup> 階級比率は 2018 年度収穫果実数から算出



写真 1. 「津之望」の樹容積当たり着果量別の着果状況

(左: 40 果/m³ 中央: 20 果/m³ 右: 10 果/m³)

表 2. 「津之望」の樹容積当たりの着果数と収量および果実品質<sup>z</sup> (2018 年 12 月 27 日)

樹容積当たり の着果数	収量 (kg/m³)	果皮色 a*	糖度 (Brix)	酸含量 (g/100ml)
40果/m³	4.4 a	32.3 a	14.1 a	0.77 a
20果/m³	3.4 ab	34.5 a	13.4 a	0.62 b
10果/m³	2.1 b	32.6 a	12.4 b	0.60 b

<sup>z</sup> 異なる文字間は Tukey-Kramer 法による多重比較により 5%有意水準で有意差あり (n=10~20)

[その他]

研究課題名: 「β - クリプトキサンチンの供給源となる国産カンキツの周年供給技術体系の実証」  
革新的技術開発・緊急展開事業 (うち戦略プロジェクト)

予算区分: 国庫

研究期間: 2016~2018 年度

研究担当者: 園田真一郎、山下次郎